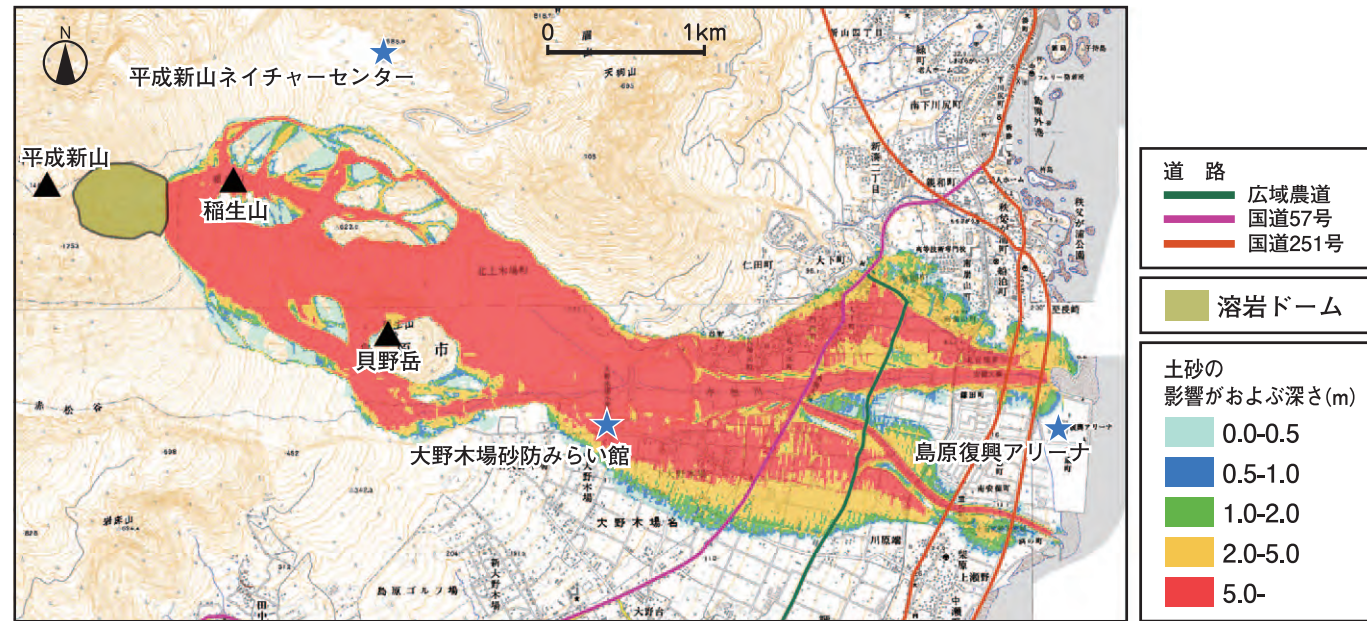


今も続く溶岩ドーム崩落の危険

被害想定区域のイメージ（ケース5）



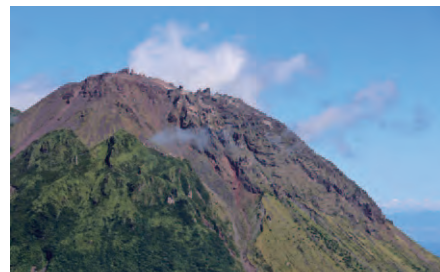
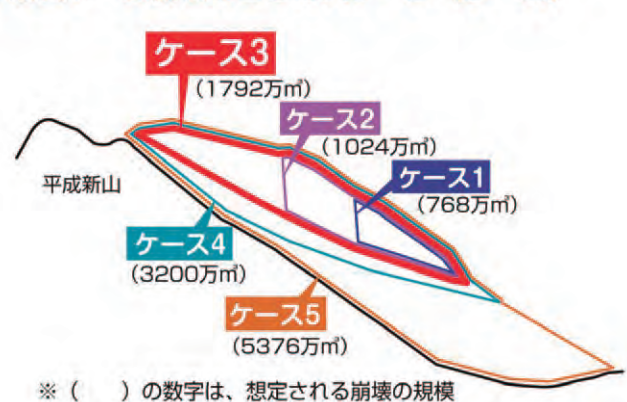
いまでも続く噴火の脅威

平成噴火は終息したもの、噴出した溶岩が現在も山頂に残ったままで、その総量は約1億立方メートル（福岡ペイペイドーム53杯分）にもなります。この溶岩が不安定な状態で堆積して、平成9年から令和2年までの間に、東南東（島原市方面）に約1.3メートル、年間で6センチ程度ずり落ちるようになっています。

国土交通省雲仙砂防管理センターの分析では、ひとたび地震などで崩壊現象（岩屑なだれ）が発生すると、国道57号まで約4分、有明海まで約7分到達すると試算されています。

岩屑なだれと崩壊後の土石流対策として、崩壊パターンケース1からケース5までを想定。その中で発生の可能性が高いケース3に備えるため、水無川1号・2号砂防堰堤の4.5メートル嵩上げ工事が行われました。また、溶岩ドーム崩壊の前兆をとらえ、的確な避難の判断を行うために監視や観測体制の検討・整備が進められています。

溶岩ドーム崩壊の5つのパターン（ケース）

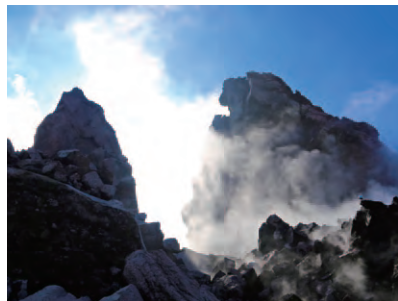


「備える」「つなぐ」

噴火が終息しても、ここに暮らす私たちに不安を与え続けている溶岩ドーム。ドーム崩壊に備えつつ、今後またいつ始まるかわからない噴火活動にも備えなければなりません。

「自分たちの命は自分たちで守る」
いざというとき最後には、自分たちの命を守るのは自分たちしかいません。有事の際にどう動くか、私たちそれぞれが自分の身を守る方法を日頃から考え、備えておく必要があります。

「未来の命を守る」
再び噴火活動が始まったとき、ここに暮らす未来の人たちがすばやく的確に行動できるよう、自然災害の脅威、避難行動、防災活動の重要性を伝えつなぐことが、今を生きる私たちがなすべきことではないでしょうか。



噴火災害の脅威を伝え続けています

火砕流最長到達点

図 ふか桜パーク内(国道57号線側)



国道57号以南の水無川右岸の護岸を利用した公園内に、当時頻発した火砕流の中でもっとも遠くまで達した火砕流(平成5年7月19日に発生)の地点に支柱が建てられています。

この地点は、山頂から約5.6キロメートルもの距離があり、遠くに普賢岳を望むことができ、自然災害の規模の大きさを伝えてくれます。

土石流被災家屋保存公園

図 深江町丁6077 ● 開館時間…午前9時～午後5時
● 休園日…年中無休 ● 入園料…無料
図 72-7222 (道の駅 みずなし本陣ふかえ)



道の駅みずなし本陣ふかえに隣接し、土石流により被災した家屋を保存展示している施設。公園内の家屋は1992年8月8日、14日に発生した土石流により被害を受けたもので、災害のすさまじさを身近に感じ、防災の重要性を学ぶことができます。

各施設において、新型コロナウイルス感染状況により臨時閉鎖する場合があります。

大野木場小学校メモリアルデー

旧大野木場小学校の校舎や体育館が火砕流により焼失した9月15日をメモリアルデーとし、災害の記憶を風化させないために、大野木場小児童が噴火災害について学習した成果の発表や、被災体験者の講話を聞いたりして砂防事業の重要性や防災に対する意識を高める集会を毎年開催しています。

集会の最後には、旧大野木場小学校の校庭で火砕流の被災を乗り越えたイチョウの木をテーマにした歌「生きていたんだね」を全校児童で合唱しています。

平成12年から始まったこのメモリアルデーも今年の9月15日に22回目を迎えます。



火砕流被災を乗り越えたイチョウの木（現在）

つなごう未来へ！
島原半島ユネスコ世界ジオパーク

島原半島ジオパーク協議会 ☎0957-65-5540

ジオパークは、価値ある地球活動の痕跡を保護し、それらを未来に引き継いでいくことを目的としたユネスコの取り組みです。島原半島ジオパークは、日本で最初に『ユネスコ世界ジオパーク』に認定されました。その見どころ(サイト)に旧大野木場小学校被災校舎や土石流被災家屋保存公園などが含まれており、ここに暮らしてきた人々と火山の噴火のつながりや災害の予防と復興の重要性を訪れた人に伝えていきます。